



かどわきっ子

南島原市立大野木場小学校

校長 森田 純弘

授業参観

先週金曜日は、3学期最初の授業参観・学級部会でした。

今回は、1年生はドッジビーと凧作り、2年生は算数の学習、3年生は親子調理、4年生はドッジボール、5年生はボッチャ、6年生は薬物乱用防止教室と制服採寸という内容で、親子で活動する学年が多く、いつもの参観とはまた趣が違うひとときでした。(2年生は12月に親子レクを済ませています。)お仕事や御家庭のこともある中に、時間を確保していただき感謝いたします。

学校で見せるいつもの表情とは違い、パワーアップした笑顔や甘えた素振り、学年が上がると少し照れくさそうな表情を見ることができました。保護者の皆さんが見せる笑顔も、授業参観の醍醐味です。子どもたちやお母さん・お父さんのそんな姿を見ることができるので、私は授業参観が大好きでした。そんな中から、指導のヒントをもらうこともできました。

子どもたちにとって、親をはじめ家の人が学校にやってくる、一緒に活動するというのは特別なことです。そして、友達のお母さん・お父さんのことや親子のやり取りを見て、自分の家と比べたり確認したりもします。中には、家の方の服装を見る子どももいます。

子どもたちは、いったい何を比べたり確認したりしているのでしょうか。それは、自分の存在意義と親からの愛情です。友達とはどんな言葉を掛けてもらっているか、自分にはどんな言葉を掛けてもらえるか。どう接しているか、どう接してもらえる…。兄弟姉妹が3人いれば、家のなかでは3分

の1ですが、教室では1分の1、100%の愛情をもらえますからね。子どもたちの笑顔にも納得です。

そして、家に帰ってから掛けてもらう一言で、存在意義と愛情を更に感じるができます。学校には来ていなかった家族からの一言で、もっと感じるができます。

たとえ授業参観に行けなかったとしても、わが子の様子を他の親さんから聞いて声を掛けることで、子どもが感じている寂しさを幾分和らげることができます。

実は、兄弟姉妹がいても、愛情はその子に100%注ぐことができます。注いでいるつもりでも、子どもがそれを感じていなければ、それは時間と同じように3分の1、4分の1になるかもしれません。子育てでは「自尊感情、自己肯定感、自己有用感」などの言葉をよく耳にしますが、それらを高めるのは特別なことではなく、日常の接し方や会話の中にあると思います。教育理念に掲げる「笑顔」は、自尊感情を高めることを目指しています。

御寄付ありがとうございます

大野木場地区在住の横田清廣様、横田耕司様から大野木場小学校へ図書購入費として、横田孝智様から大野木場小学校PTAへ活動費として御寄付をいただきました。ありがとうございました。

図書は、すでにいくらか納品が済んでいます。3学期は、「かしこく」アップのために、家にも本を持ち帰って読むことをめあてにしています。有効に使わせていただきます。